大阪府学校医会70周年
(一社)大阪府立高等学校校医会65周年
記　念　誌

大阪府学校医会
(一社)大阪府立高等学校校医会

大阪府学校医会創設 70 周年を迎えて

大阪府学校医会会長
森口　久子

歴史を紐解きますと、昭和 26 年（1951 年）大阪府学校保健会改称発足にあたり大阪府学校医会が新組織として活動を開始しました。昭和 31 年政令指定都市となった大阪市が分離しました。その後大阪府養護教諭部会、大阪府学校歯科部会、大阪府学校薬剤部会、大阪府保健主事部会と共に大阪府学校保健会を支える 5 部会となりました。昭和 33 年には大阪私立学校保健会、昭和 36 年には大阪府立高等学校保健会が発足しそれぞれに学校医部会が立ち上がりました。日本学校保健会を頂点とする学校保健会の組織は学校 3 師と養護教諭部会、保健主事部会の 5 部会、さらに教諭、ＰＴＡ代表を擁し学校保健に係る課題を連携しつつ解決する道を歩んできました。

そのような背景の中、日本の高度成長期における教育の課題は子ども達の心身の健康に関わる大きな課題と捉え、昭和 51 年大阪府医師会に学校医部会が設立されました。

昭和 60 年には当会顧問の役職に大阪府医師会副会長の参加を得て、ともに学校保健の課題に取り組む体制が確立されました。平成 18 年堺市が政令指定都市となり、学校医会から分離しました。現在は大阪府学校保健会、大阪市学校保健会、堺市学校保健会がそれぞれ独自性を持ち活動しています。令和元年より大阪府医師会学校医部会会長が当会名誉会長として参画されています。

日本学校保健会は令和 2 年 100 周年を迎えました。歴史ある日本学校保健会常務理事に当会顧問が就任されたことは大きな喜びであります。学校における子ども達の安全安心に教育者の視点だけでなく医療者としての視点が大変重要であり、学校医には教育現場における適切なアドバイザー、時には子ども達の良き代弁者であることも求められます。さらに時代の流れと共に大きく変化する学校現場の課題に常に現場感を持って取り組むには教育委員会との連携と共に養護教諭部会、保健主事部会との意見交換が欠かせません。そのため大阪府教育委員会を事務局とし、5 部会を取りまとめる大阪府学校保健会は大きな役割を担い、果たしていくことを求められていると感じています。

70 周年の節目に当たり大阪府学校保健会と共に歩んできた大阪府学校医会の活動を今後もご支援いただきますようお願いいたします。

大阪府立高等学校校医会創立 65 周年

（一社）大阪府立高等学校校医会会長
大阪府学校保健会会長
松本　泰仁

大阪府立高等学校校医会が創立 65 周年を迎えることは大変におめでたいことです。これも会員の先生方や諸先輩の先生方の頑張りの賜物です。この節目の年に会長を務めさせていただき、誠に光栄です。今回は昨年からのコロナ禍で、大阪府立学校医会の創立七十周年との合同での式典は、残念ながら挙行なしえません。誠に残念です。

私が入会させていただいた時には、大学の大先輩の藤本正三先生が会長をなされ、長年に亘り校医会の会務運営など、多岐に活動されました。その後、会長になられました荘田靜先生が退任された後は、森口久子先生が会長になられる予定でしたが、森口先生が大阪府医師会の茂松茂人会長からの推薦で大阪府医師会理事へ就任され、森口先生から荘田先生の後任に小生が指名され (本当は理事を退任するつもりでおりましたが)、平成 29 年 4 月より現職を務めさせていただいております。会務の方は大阪府学校保健会とも連携し、学校三師、養護教諭、保健主事、大阪府教育庁ともお互いに補完し合いながら、それぞれの問題に取り組んでいます。

今回の新型コロナウィルス感染症禍により学校での生活も変わり、オンライン授業とか、休校もあり、部活動の制限も設けられ、学生さんたちのコミュニケーション不足やら、体力不足やら、心配なことばかりです。

私たち学校医もメンタルヘルス面を含め、多種多様の対応が必要となって参ります。

今後も会員各位のさらなる御活躍をよろしくお願い致します。

ご挨拶

大阪府学校医会顧問
大阪府医師会長
茂松　茂人

大阪府学校医会 70 周年・（一社）大阪府立高等学校校医会 65 周年の記念誌を発行されるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

近年、社会構造や生活様式のあり方に対する考えが大きく変化し、子どもたちの心身に対して様々な影響を与えています。更に、現在猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症は子どもたちに大きな負担を強いることになりました。私たち大阪府内全ての学校医は、子どもたちと同じ目線に立ち、寄り添いながら必要以上の不安を取り除くことが求められております。そのため学校健診や学校保健委員会をはじめ、情報共有を行う機会に健康管理と健康教育への指導・助言を行うことで、子どもたちにとって学校が安心できる場所となるべく力を注いで頂きますよう切にお願い申し上げます。

コロナ禍において活躍されております貴会は、戦後復興の時代に産声を上げました。設立当初は栄養失調、結核、寄生虫病、感染症などの問題から、現在では、社会の移り変わりとともにかつて予想もしなかった児童生徒の肥満をはじめとした生活習慣病、アレルギー疾患、いじめやこころの問題など多岐にわたる問題に取り組まれて来られました。

一方、大阪府医師会学校医部会はその後、昭和 51 年にスタートいたしましたので、貴会は学校医活動の先輩にあたります。

貴会は旧文部省、大阪府医師会は旧厚生省の管轄内にあるという行政の垣根を越え、大阪の学校保健を一元化していくということを長い間お互いに抱いておりました。その祈願と共に存在を認め合うことで、次代を担う子どもたちの健康や安全に貢献できたことは大きな喜びです。

今後も緊密な連携と情報共有により、大阪府内の学校保健の充実を成就させて参りたいと考えております。そして、諸先輩方のこれまでの実績を忘れることなく、子どもたちの現在と未来を胸に留めながら邁進していくことを強く望んでおります。

また、貴会は大阪府学校保健会の中心的な役割を担っております。大阪市・堺市等の学校保健会とも緊密な連携をとりながら、日本学校保健会へ提言していただくことで、これからの保健教育に大きく寄与いただけるものと期待しております。

最後になりましたが、大阪の学校保健を支えるため、長い歴史の中で、貴会に所属された全ての先生方に深い敬意と感謝を申し上げます。

ご挨拶

大阪府医師会副会長
大阪府医師会学校医部会部会長
大阪府学校医会名誉会長
中尾　正俊

大阪府学校医会が 70 周年・（一社）大阪府立高等学校校医会 65 周年を迎え、記念誌発行に際し、ご挨拶させていただきます。新型コロナウイルス感染症拡大や重症者数、死者数を日々のニュースで耳にしない日がない中で、私たちは子どもたちの学びや健康について、将来を見据えながら学校医活動を行っております。脅威となっている新型コロナウイルス感染症は子どもたちへの影響は大人に比べて小さいと言われていますが、感染リスクは家族内感染等ゼロではありません。万が一のときには、治療・療養中はもちろんのこと、登校可能となっても、当事者が差別を受けず仲間と学び、遊べる環境を維持するため、学校現場の先生と連携しながら、注意深く見守っていかなければと考えております。

さて、社会の変化は目まぐるしく、より専門的になり、細分化されていることは、よいことも多い反面で、子どもたちにとって、貴学校医会が誕生した 70 年前・65 年前とは違う息苦しさを背負って生きていることも確かなことかと存じます。

時代に即した学校保健を築くことが肝要であり、子どもたちが、過去を振り返りつつ、来るべき未来へ繋いでいくことを支援する役割を学校医は担っており、母子保健から老人保健へ続く生涯保健において、学校保健が子供たちの人生の礎となることは言うまでもありません。

また、学校医は、地域の貴重な財産である学校を中心として、歯科医師･薬剤師･現場の先生方と信頼しあい学校保健活動を実践していくことが重要です。教育現場と医療者が一緒に、学校の問題を地域全体で考えていくことを通じて、広い視野を持ち、感性豊かな児童・生徒を育成できると考えております。

一方、平成 27 年から、学校医活動が子どもの健康管理のみならず、学校産業医として教職員の産業保健を包括するようになりました。産業医は必要とされる専門性について、法律で記されています。医師会でも産業医研修会を開催し、学校産業医が最新の知見で教職員の健康管理・保持増進を行えるよう努めております。

日常診療に追われ、新型コロナウイルス感染症との闘いも続きますが、皆さんとともに歩みを進めていきたいと思います。

祝　辞

大阪府教育庁教育振興室
保健体育課長
西田　　修

大阪府学校医会創立 70 周年・（一般社団法人）大阪府立高等学校校医会創立 65 周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げますとともに、先生方におかれましては、長きに渡り、本府学校保健の推進に格別のご尽力いただいており、厚くお礼申しあげます。

さて、近年、都市化や少子高齢化などにより、子どもを取り巻く社会環境や生活環境は大きく変化しております。また、スマートフォンの普及やＳＮＳなどにより情報が氾濫する中で、子どもたちの健康課題は多岐にわたっております。

また、今般、社会全体に大きな影響を与えております新型コロナウイルス感染症により、全国的に実施された一斉臨時休業を始めに、可能な限り感染拡大のリスクを軽減した中で教育活動を実施するため、多くの学校行事などに制限や変更が行われるなど、子どもたちにとっては異例続きの学校生活となっております。子どもたちに与える心身への影響は大きく、それらに伴う健康課題への対応も喫緊の課題となっております。

これらの課題に対応するためには、学校が学校医の先生方と連携し、家庭、地域とともに、子どもたち一人ひとりに正しい知識を習得させるとともに、自ら考え、適切な意思決定及び行動選択できる力や、自己や他者を認め尊重する態度を育成することが重要と考えます。

学校医の先生方におかれましては、健康診断や新型コロナウイルス感染症への対応だけでなく、子どもたちが安全に安心して学校生活を送るために、学校生活全般について、学校から多くご相談させていただいていることと存じます。この場を借りましてお礼申し上げますとともに、今後とも、子どもたちにかかわる学校と家庭、そして地域の連携による学校保健の充実及び推進にご協力賜りますようお願いいたします。

結びに、大阪府学校医会及び（一社）大阪府立高等学校高医会の皆様をはじめ、関係者の皆様に敬意を表するとともに、貴会のさらなるご発展を祈念いたしまして、祝辞とさせていただきます。

祝　辞

（一社）大阪府学校歯科医会
会長
上田　直克

大阪府学校医会創立 70 周年・（一社）大阪府立高等学校校医会創立 65 周年　記念誌の発刊にあたり、大阪府学校歯科医会を代表してお祝いを申し上げます。

貴会におかれましては、創立以来、70 年の長きに亘り、歴代会長のもと役員の先生方、会員の皆様の献身的なご尽力により、学校保健及び学校安全の普及・向上に多大な功績をあげられたことに対し、深甚なる敬意を表します。

また、近年、社会環境や生活環境の急激な変化が子供たちの心身の健康に大きな影響を与え、様々な健康課題が生じております。学校保健に関わる様々な課題に取り組んでこられた貴会のたゆまぬ努力に感謝の意を表します。

昨年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、長期間の学校の臨時休業が行われました。今年に入っても新型コロナウイルス感染症は消退せず、長期化することが見込まれています。こうした中で、児童生徒の健全な育成を目指し、基本的な感染症対策を継続する「新しい生活様式」を取り入れ、学校における感染症対策及びその拡大のリスクを可能な限り低減した上で、学校の多様な教育活動を継続していく必要があります。

歯科におきましても、歯科医療と口腔機能管理の充実が、全身の健康の増進、ひいては健康寿命の延伸に貢献することがわかり、健康寿命の延伸のため、乳幼児、学童期からはじまり、高齢期まで、生涯を通じた口腔健康管理の充実に取り組んでおります。その中でも、未来を担う子供たちが、主体的・継続的に自らの健康を保持増進するための資質や能力の育成する学校保健の取り組みは大切です。

複雑・多様化する子供たちの健康課題の解決のためには、学校と「学校医・学校歯科医・学校薬剤師」の三師会が連携を一層強化するとともに、家庭・地域社会との連携を深めることが重要であります。

大阪府学校歯科医会は、これからも貴会と連携をとり、学校保健の更なる向上に邁進して参りたいと考えておりますので、引き続きご指導、ご協力をいただきますようお願い致します。

結びに、皆様方のご健勝と　森口久子会長、松本泰仁会長のもと、大阪府学校医会、大阪府高等学校校医会が益々発展されますことを心よりお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝　辞

大阪府学校薬剤師会
会長
西田　恵藏

大阪府学校医会創立 70 周年・（一社）大阪府立高等学校校医会創立 65 周年を迎えられましたことに謹んでお祝い申し上げます。

大阪府学校医会は昭和 26 年の創立以来、（一社）大阪府立高等学校校医会は昭和 31 年の創立以来、それぞれ 70 年と 65 年の長きにわたり歴代の会長様をはじめ、関係者のご努力により、学校並びに学校保健活動の充実発展や組織の維持、会務諸般にわたりご尽力され、多大な寄与を致して来られましたことに、深く敬意を表する次第でございます。

大阪府学校医会の森口久子会長と（一社）大阪府立高等学校校医会の松本泰仁会長と大阪府学校歯科医会の田幡純会長とは、大阪府学校保健会で非常に親しくお付き合いさせていただいております。森口久子会長から大阪府医師会学校医部会主催の研修会に、大阪府学校薬剤師会をお誘いいただいて、参加させていただきました。今までこのような交流がなかったので素晴らしいことだと思いました。今後このような交流を続けて頂けたらありがたいです。

大阪府医師会指定学校医制度を平成 16 年 4 月に創設され、研修単位を履修された方を認定されるという制度はたいへんよくできていると思います。学校薬剤師会も参考にさせていただきたいと思っています。学校医の職務執行の準則に、学校環境衛生の維持及び改善に関し学校薬剤師と協力して必要な指導と助言を行うこと、という項目があります。学校薬剤師が行う学校環境衛生検査等は、インフルエンザや新型コロナウイルスなどの感染予防のための二酸化炭素濃度や温度・湿度などの空気環境について検査を行います。アトピーなどのアレルギー疾患の発症や喘息発作などの呼吸器疾患を予防するためのダニ・ダニアレルゲン検査、ホルムアルデヒドなどの化学物質による体調不良の予防のため揮発性有機物の検査、快適な教育環境のため騒音レベルの測定。また、近視を防ぐための照度の検査、飲料水の安全性の検査、そして、プールでの感染症の予防のため大腸菌検査や遊離残留塩素を検査します。

学校給食、食品衛生については、学校薬剤師の協力得て実施することになっています。

「薬の正しい使い方」「喫煙、飲酒、薬物乱用防止」については、大麻所持などで検挙された人数は 6 年連続で過去最多を更新し、半数以上が 20 代以下の若者で占められています。インターネットで簡単に入手可能で、ＳＮＳ等でのフェークニュース、煽り、そそのかしがある現状において重要性を増しています。

学校保健活動の推進のため、今後とも学校医の先生方と連携を密にとっていきたいと思います。

最後になりましたが、大阪府学校保健会そして大阪府学校医会・（一社）大阪府立高等学校校医会のますますのご発展を心より祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。

祝　辞

大阪府学校保健会保健主事部会
会長
加納　啓司

大阪府学校医会創立 70 周年・（一社）大阪府立高等学校校医会創立 65 周年おめでとうございます。大阪府学校医会が昭和 26 年に、（一社）大阪府立高等学校医会が昭和 34 年に発足以来、関係者の皆様のご協力により、学校保健の充実・発展に貢献してこられ、ここに 70 周年また、65 周年という記念すべき年を迎えられましたことに対し、大阪府学校保健会保健主事部会を代表し、心からお慶び申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催が予定されていました記念式典及び祝宴が中止されましたことは、非常に残念ではございますが、70 年にわたる大阪府学校医会の活動をまとめた記念誌が発行されますことは、まことに意義深いことと存じ、心からお祝い申し上げます。

さて、学校医会の皆様には、日ごろから、お忙しい中、児童・生徒の健康診断や健康相談、感染症の予防に関する指導や助言等、様々な場面で学校をご指導・ご支援くださり、まことにありがとうございます。特にこの２年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、医療従事者の皆様への負担が大きい中にも関わらず、学校の保健活動にご理解、ご協力をいただいていることに本当に感謝申し上げます。

保健主事は、学校保健と学校全体の活動に関する調整や学校保健計画の作成、学校保健に関する組織活動の推進など学校保健に関する事項の管理に当たるのが職務です。その職責を全うするために、保健主事部会としては、本年度、昨年度実施できなかった新任保健主事研修会や小・中・高等学校合同研修会を実施し、保健主事としての資質の向上を図りながら、時代や課題に即した取り組みを進めているところです。今後も健康教育や学校保健の推進に全力をあげて取り組んでまいります。学校医会の皆様には専門的なお立場から、今後もなお一層のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、大阪府学校医会・（一社）大阪府立高等学校医会のますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝　辞

大阪府学校保健会養護教諭部会
会長
稲田　美香

この度は、大阪府学校医会創立 70 周年及び大阪府立高等学校医会創立 65 周年を迎えられ、心からお祝い申し上げます。長きに渡り、大阪府の学校保健を支えていただき、本当にありがとうございます。

子どもたちを取り巻く環境は、社会情勢の変化とともに大きく変わってまいりました。環境衛生も大きく改善され、健康課題も変化してきました。たとえば、食生活の変化に伴い、子どもたちの体格はより大きくなり、成熟も早くなっています。しかし、様々な経験不足から、心の発達は緩やかになっているように感じます。また、運動する機会も減り、体力低下が心配される一方、一部では運動選手を目指し､早期からの運動過多状態でのトラブルも心配されます。そのような中、学校保健においては単に病気の予防だけでなく、生涯にわたって健康を保持するための基礎を養う教育が求められているように思います。そして、学校現場では不登校やいじめなどが問題となり、子どもたちの心の健康をどう創っていくかも重要です。また、新型コロナウィルス感染症の世界的な感染拡大が、子どもたちの心と身体の健康と成長に及ぼす影響も心配されます。

このような健康課題を解決していくためには、学校保健に関わる私たちが研修を積み重ねて、より専門性を深め、連携していかなければなりません。学校医様には、今後も新しい医学の知識を教えていただくとともに、学校における健康教育にご助言・ご指導いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

最後に、現在まで大阪府学校保健会養護教諭部会にご理解とご協力を賜り、感謝の気持ちでいっぱいです。今後も本部会を支えていただけますよう願うとともに、大阪府学校医会及び大阪府立高等学校校医会の会員の皆様方のご健康と発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

寄　稿

大阪府学校医会監事
大阪府立和泉高等学校校医
岸和田市立東光小学校校医
池添　逸夫

大阪府学校医会創立 70 周年、並びに大阪府立高等学校校医会創立 65 周年を迎え誠におめでとうございます。両会をここまでの発展と継続に貢献されてこられました関係者の皆様と諸先輩の皆様に、敬意の念を捧げます。

さて、２年近くに及ぶ新型コロナウイルス感染症のパンデミックのため、学校関係者の皆様方には、これまでに経験したことのないストレス状態になっていると考えております。主要な学校行事である体育祭・文化祭・発表会・修学旅行等の中止や、濃厚感染者の発生で何回と繰り返される臨時休校措置は、平時では考えられない事態です。精神的にも肉体的のも大変な状態が持続していて、ぜひ皆様方には、個々にストレス解消の工夫を凝らして過ごして頂きたいと思います。

この寄稿を書いています７月末は、ちょうど 2020 東京オリンピックが行われています。時々出るテレビのテロップで「東京の発生者が初めて 4000 人台突破、大阪で再び 1000 人以上」と報じられていますが、それぞれの国の代表として活躍する若いアスリートの姿は、コロナ禍の現実を少し忘れさせてくれます。ただ気になるのが、頑張っているアスリートの対するＳＮＳでのいわれなき誹謗中傷です。発信者を特定できない事を良いことに、言いたい放題の姿勢は許されるものではありません。

今、こうしたＳＮＳを使った非難やいじめ行為が、我々の大事な児童や生徒に及んでいないかが心配です。学校定期健診の時に､表情に元気がない子供には｢困っていることは無いか？体調は悪くないか？」と尋ねるように心がけていますが、面識のない白髪の爺さんに、一瞬の時間内で心の内を開いてくれる訳はありません。是非ともここは、校長先生を始めとして、担任・保健主事・養護教諭の先生方に一層の注意をお願いすることになります。個人的には、少々嫌な事や困ったことがあっても､跳ねのけるような強い気持ちの持った子供に育ってほしいし､又､育てて頂きたいと望んでいます。

コロナ禍の状況で、ネットの利用は医療面でも「遠隔医療」の形で急速に進みました。交通の便が悪いとか下肢筋力低下で通院困難な時に、画面を通じ患者の状態を把握する診療体制です。教育関係でも今年度から「オンライン授業」として小学校中学校で始まると報道されています。先生同士の情報交換もオンライン共有で、職員会議は基本不要になるでしょう。このように、どんどんインターネットで社会が変わってきています。新しい方法として上手に使うのも、非難や中傷の手段として下手に使うのも私たちの責任ではないでしょうか。

新型コロナウイルス変異株の流行とワクチン不足による接種率の伸び悩みで、新型コロナウイルス感染症の終息は見えません。しばらく大変な状況は続きます。皆様にはご苦労の連続ですが、健康に留意され子供たちのためにご尽力頂きますように、お願い致します。

これからの学校保健活動について

大阪府学校医会常任理事
門真市立北巣本小学校校医
松下　　享

大阪府学校医会創立 70 周年、(一社) 大阪府立高等学校校医会創立 65 周年、おめでとうございます。両会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

さて、我が国の学校医および養護教諭を中心とした学校保健活動は、世界に誇れる日本独自のシステムであり、その理念と意義は今後も大切に継承していくべきものであると思われます。しかしながら学校医の職務の１つである学校健診の意義と方法については、時代とともに変遷してきました。当初は児童・生徒の栄養状態の把握や疾患の発見に重点を置いた学校健診ですが、保健医療を取り巻く環境の変化や医療技術の進歩によって、学校生活に支障を来すような疾患は既に就学以前に診断・治療され、主治医が管理していることがほとんどとなりました。このような状況下、短時間で多くの児童･生徒に対して一律に行う儀式的な健診は、もはや時代にそぐわないものになっているのかもしれません。身体的（biological）な視点を重視して実施されてきた学校健診は引き続き重要ではあるものの、学校現場での医ケア児や重症児のへの対応などより高度な身体的管理が求められる時代となり、学校医の関与についても議論が必要です。一方で、現在の子ども達を取り巻く社会情勢とそれに応じて個々の子ども達が抱える問題は非常に複雑化してきています。子どもの貧困や虐待、インターネット利用による犯罪への関与、スマホや電子媒体を用いたゲーム依存やいじめ等々、学校現場でも大きな問題となっている事案に対して精神的・社会的（psychosocial）な視点でのアプローチが必須となってきています。

我が国では、子どもが出生してから幼児期までは定期的な健診が実施され、必要に応じて子どもやその家族に医療や福祉が介入できるようになっています。しかしながら就学後から思春期の子ども達にはこのような健診の場は設定されておらず、自殺をはじめとする思春期の心身の問題に関しても十分な対策は取られていません。学校健診とはその目的や意義は異なるものの、子どもが生まれてから成人するまでの切れ目のないフォロー体制作りに学校健診がどのような形で協力できるのか、そろそろ biopsychosocial な視点をもった学校保健活動についても考えるべき時期にきているように思います。

祝創立記念

(一社)大阪府立高等学校校理事
大阪府立茨田高等学校校医
秋山　晴近

「大阪の医師会は学校医の集まりより出来たのです。」かなり以前に先輩の先生より聞いたことがあります。真偽の程は判りませんが､ずっと気になっていました。明治、大正の時代にそんなことがあったのでしょうか？

このことはひとまず置いといて！

70 周年、65 周年記念おめでとうございます。多くの方々が携わり続けてこられたさまを想像しています。学校医は地域医療の最前線の一角であるとの認識のもと、出生後各期の健診、予防接種、幼稚園から就学前健診、小学校入学、学校生活そして中学校卒業まで私達地区医師会でも活動を続けてきました。

小中学校は地区内の住民に限られますが高等学校は広く府内の多地区より登校してくるので難しい面もあります。特に今回の covid-19 感染症の対策で、関係する行政が複数になり情報交換で時間を要した感があります。濃厚接触者を指定するための調査でも苦労があったようです。それでも学校内での二次感染は結果として認められず、府内各校でも概ねそうであったように、陽性者は単発に終わり令和３年前半の時点では学内クラスターは発生せず、学校内での感染症対策は有効に機能していたと思われます。

しかし初期のウイルスに対して若い人たちが比較的抵抗力あったとしても、これから増えてくる変異ウイルスの感染力を考えると、生徒の校外での日常生活に於ける感染防止の意識をより深めるよう啓蒙指導を続けて行かねばなりません。

兼務している学校産業医で感じることは、教職員の長時間労働についても問題点の指摘はありますが、その改善対策の実現に課題も多く存在します。

冒頭の医師会の歴史については大阪市中央区南医師会のホームページにある“日本医事史抄”も読ませていただきました。飛鳥時代から奈良、平安、室町、江戸、明治、大正、それに医師法制定前後に亘るよく研究された熱意のある立派な大作だと感銘を受けました。その中では医師会は明治 10 から 16 年に軍医の組織、政財界、日本赤十字、医学会により発足したようです。他の資料によっても軍医の会が関与したと思われる記載もありました。

学校医に関することは明治 27 年東京と神戸の小学校で配置され、明治 31 年学校医職務規定が制定し、公立学校に学校医を置くことが定められました。

残念ながら学校医が医師会の発足に関わったことは見付けられませんでした。

それでもまだ吹っ切れておりません、東京はいざ知らず大阪ではまた別の流れがあったのではないか、もう少し粘ってみましょう。知見をお持ちの諸兄がおられましたら会誌に投稿などして、教えていただければ幸いです。

眼科学校保健の諸問題と向き合って

大阪府学校医会理事
大阪府立吹田支援学校校医
宮浦　　徹

私が眼科に関わる学校保健の様々な問題に本格的に取り組むようになったのは、平成 13 年（2001）に日本眼科医会の視覚検討委員会のメンバーになってからのことである。この会長の諮問委員会に課された命題は「これからのあるべき眼科学校保健とは」であった。私自身、それまで漠然と行っていた眼科健診には疑問を感じていただけに改めて眼科学校保健に取り組む良い機会となった。次代を担う子どもたちの眼の健康を守るため、児童生徒の視覚管理、学年を考慮した健診、学校保健委員会への積極的な参加、健康教育と指導などについて深夜まで熱く語り合ったことが、その後の学校保健活動で大いに役立った。

平成 16（2004）年、日本眼科医会の学校保健担当理事になってからは文部科学省（以下文科省）や日本学校保健会と連携を図りながら諸問題に取り組むようになった。眼科学校保健上、文科省による指導等が必要な問題があれば、まず全国調査等を実施してデータを入手し、まとめたものを会報や学会で報告する。これを要望書とともに文科省に提出し、通知発出による学校関係者への指導・啓発を求めることになる。この手順で作業を進め、通知発出に至った 3 件についてお話します。

1）平成 19（2007）年 10 月、運動場の白線に用いる消石灰による目のアルカリ熱傷が問題となっていたため、全国の眼科医会を通じて症例を集め、これをまとめて文科省に提出。同年 11 月に「運動場のライン等に使用する石灰の取り扱いについて」の課長通知（19 文科ス学健第 19 号）が出された。

2）平成 19（2009）年 12 月には幼稚園や保育園での視力検査の実施状況について全国調査し、その実施率が 50% に満たなかったため、要望書「幼稚園と就学時の健康診断における視力検査実施の件」を提出。3 か月後にようやく文科省から指導強化の課長通知「児童生徒等の健康診断及び就学時の健康診断の実施について（21 文科ス学健第 34 号）」が出された。

3）平成 25（2013）年 10 月には、学校での色覚検査が実施されなくなったことで色覚異常の児童生徒が学校生活や進学・就職で不利益を受けていたことを平成 22・23 年度の全国調査で明らかにし、要望書を提出。平成 26（2014）年 4 月、「学校保健安全法施行規則の一部改正等について」の局長通知（26 文科ス第 96 号）の中で留意事項として、また事務連絡（平成 26 年 6 月 6 日）として要望書に沿った内容が盛り込まれた。

これら 3 つの通知は眼科学校保健の眼外傷（化学熱傷）の予防、弱視児の発見、色覚異常に関わる問題であったがこの他、近視の増加、コンタクトレンズ、眼感染症、眼アレルギー疾患、心因性視覚障害、スポーツ眼外傷等々、眼科学校保健の課題は少なくない。今後はこれら諸問題とも向き合いながら、大阪の眼科学校保健の向上に貢献できればと考えている。

益々の発展を願って

大阪府学校医会理事
阪南大学高等学校校医
松原市医師会
山田　晃久

大阪府学校医会が創立 70 周年を迎えられるとの事、これまでの先輩の先生方や関係者の皆様の大変なご尽力によるものと、敬意を表したいと存じます。

記念すべき年ではありますが、一昨年の 12 月中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症がその後全世界に拡がり、日常生活が一変してしまいました。学生生徒の勉学や行事が現在でも充分に行えない状況が続いております。ウイルスの変異もあり感染は一向に衰えておりません。対応としてワクチン接種が進んでおりますが、中学生への接種については尚議論のある所であります。何とか全体の接種率の増加や新しい治療法等により、早期に感染が終息することを願っております。

私も約 20 年、学校医として、毎年生徒の健診をしておりますが、そこでの印象としては、以前に認めたひどいアトピー性皮膚炎や気管支喘息の生徒は減っているように思います。

現在の問題点は、社会生活の変化に伴うスマホやゲームによる時間的影響であります。睡眠不足になりその為に朝食を摂らない生徒も多くいるようです。成長期の睡眠不足は教育上、成績低下の原因の一つとも言われています。各生徒の家庭との連携により極端な事のないようにしたいものです。

それらの事も含め、各自治体でも行っておられると思いますが、学校保健会の意義は大きいと思います。各小中学校での保健委員会の中では、生徒の相談相手となることや、アンケート調査を行う事で一番状況についてよく把握している養護教諭の役割は特に重要であります。その養護教諭の問題提起を中心に議論を行い、それらをまとめ、会誌として各委員に配布されますので、問題点を共有することになります。ここでの議論の問題点については地区医師会でも重要と思われる事については市との協議の時に要望され、その成果として、当市での教員の校内における喫煙禁止やルームエアコンの設置等が実現された事等があります。

以前、私立学校保健会副会長川崎先生の文章で、養護教諭という職業は世界中で日本しか無いと書かれておられました。生徒にとって種々の感染症、心の悩み、いじめ、校内での外傷等々多岐にわたる問題に的確に対応してくれる養護教諭の役割は非常に重要であります。是非ともこのシステムが継続されることを願います。

私も高齢となり校医をいつまでやれるかは分かりませんが、今の所要請があれば続けたいと思っております。

終わりに、大阪府学校医会の益々の発展を願っております。

特別寄稿

万国博覧会と大阪

1970 年大阪万博から 2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に向けて

大阪府特別顧問／大阪市特別顧問
大阪府立大学研究推進機構特別教授
工学博士
橋爪　紳也

1　はじめに

大阪府学校医会創立 70 周年、（一社）大阪府立高等学校校医会 65 周年、誠におめでとうございます。戦後復興期から高度経済成長を経て今日に至る大阪の発展を支えてきた多くの人材も、学校医の先生方のサポートがあって初めて、安心して学ぶことができたものと存じます。

記念式典での講演をご依頼いただき、光栄に思っていたところですが、新型コロナウィルスによるパンデミックのなか、残念ながら実現できませんでした。式典では、1970 年日本万国博覧会から 2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に向けた大阪の可能性をお話しせよというご依頼でしたので、講演予定の要点を以下に寄稿させていただきます。

2　アジア初の国際博覧会

アジアで初となる国際博覧会を日本で開催することは、長く関係者の願いであった。戦前にあっては、東京月島と横浜を会場に「紀元二千六百年記念日本万国大博覧会」をオリンピックと同時開催する計画が具体化したが、第二次世界大戦の戦火の拡がりを受けて断念することになる。

Expo70 パビリオン内部

ようやく 1970 年、千里丘陵において国際博覧会条約に基づく一般博覧会である日本万国博覧会が開催された。会場面積は約 330ha、３月 15 日から９月 13 日までを会期とし、「人類の進歩と調和」がテーマに掲げられた。

参加国は 77（日本を含む）、香港政庁、国連やＥＣ、ＯＥＣＤなどの国際機関が参加した。公共団体、内外の企業・団体の展示館も 30 館ほどを数えた。

Expo70 パビリオン

万国博覧会の会場は、会場中央に長さ１キロ、幅 150m のシンボルゾーンを設定し、お祭り広場、太陽の塔、テーマ館、エキスポタワーなどの施設を配置した。ここから四方に「動く歩道」が伸びる。各曜日の名称がつけられた広場を中心に、民族色、あるいは前衛的な色合いの濃い、それぞれに個性的なパビリオン群が建設された。

月の石や月面着陸船を展示したアメリカ館、レーニンを顕彰する展示に加えてソユーズ宇宙船を出展したソ連館をはじめ、各国の展示が話題になった。マルチ映像を駆使したオランダ館、スライドショーを手元の白紙に落として見せるスカンジナビア館などの演出などは、高い評価を得た。いっぽう企業館は、巨大スクリーンへの投影やマルチ映像、煙への投影など新たな映像展示の実験を競いあった。

1970 年大阪万博の会場風景。手前にアメリカ館、後方にソ連館が見えている。

万博による経済効果は、日本全国で３兆 5,000 億円、大阪圏だけでも１兆 1,000 億円と試算された。今の価値に置き換えると全国で 11 兆円、大阪圏で３兆円を超える規模である。道路や鉄道などの基盤整備に 6,500 億円が投下された。会場と大阪の都心を連絡する幹線など、総延長約 110km の道路が、数年のあいだに竣成をみた。アクセス鉄道の整備、河川改修や港湾の整備も行われた。大阪空港の国際化も実現した。工事のピークであった 1969 年には、約 22 万人の建設関連の雇用が新規に生じた。

半年の会期中の来場者数は、6,421 万 8,770 人に上った。国際博覧会の歴史にあって記録を塗り替えるものであったが、のちに上海世界博覧会に更新される。国内では、博覧会開催を契機に、各種団体が主催するグループ旅行が盛んになった。最高の人出があったのが、閉会式を１週間後に控えた９月５日であった。この日だけで 83 万 5,800 人の入場者数を記録した。夕刻からはゲートに押し掛ける入場者の列に、出場しようとする人が押し返され混乱をきたした。閉門後も 50,000 人の人が場内に取り残され、最終的に 4,000 人が会場内で夜を明かした。

3　1970 年大阪万博から 2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）へ

1970 年日本万国博覧会が開催された当時、私は 10 歳であった。会場を 18 回ほど訪問、すべてのパビリオンに入館した。各国の文化に触れ、世界は多様性に満ちていることを確信した。いっぽうで科学技術の革新がもたらすであろう、近未来の社会や生活の可能性を示す展示に驚いた。

私は、人生で大事なものを万国博覧会の会場で学んだと今でも思っている。ひとつには異なる価値を相互に容認する社会の必然性であり、普遍性を求める人類文明の進化への信頼である。そしてなによりも、人々のイマジネーションを喚起する力を持つ、博覧会という国際的なイベントが果たす役割の重要性であった。10 歳の私は、1970 年日本万国博覧会の会場で、将来、博覧会に関する仕事をする人になりたいと思った。

私は、大阪万博に関する資料の保存と利活用に関する研究と実践を進めてきた。公園となった博覧会場跡に現存する当時のパビリオン「鉄鋼館」を、1970 年日本万国博覧会の資料を公開する「EXPO70 パビリオン」として再利用する際、展示を監修させていただいた。

1970 年大阪万博会場の筆者

その後､大阪では 1990 年に「国際花と緑の博覧会（大阪花博）」を開催、さらに 3 度目の国際博覧会となる 2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」の誘致に成功した。私は 2025 年日本国際博覧会の誘致案の立案にあって、もっとも初期の段階より関与させていただいた。私にとっては、1970 年当時の想いが、2025 年につながっている。

1970 年に私が経験したのと同様に、2025 年の博覧会場にあって、未来を担う子供たちが、文化の多様性に触れ、また科学技術が切り開く人類文明の持続的な発展に関して、おおいに関心を持ってもらいたいと願うところだ。

5　国際博覧会のレガシー　万博は終わらない

1970 年日本国際博覧会は、道路や鉄道のネットワークを始め、さまざまなレガシーを今日に残している。国際的な貢献もある。現在も使用されているＢＩＥのシンボルマークもそのひとつである。大阪での博覧会開催を記念する事業として読売新聞社が提案、国際的なデザインコンペを経て制定されたものになる。

私たちの記憶のなかでは、1970 年の大阪万博は終わっていない。1970 年日本国際博覧会は、1964 年に挙行された東京オリンピックとともに、日本が戦後復興を果たし、国際社会に復帰したことを象徴する国家事業として、多くの人に記憶されている。

1970 年の当時、まだ生まれていなかった世代も、緑豊かな公園に再整備された博覧会の跡地に足を運ぶと、「奇跡」とも形容された日本の戦後復興を、そして「古き良き高度経済成長期の日本」に、誰もが想いを馳せることができる。

また私たちは、1970 年日本国際博覧会で掲げられた「人類の進歩と調和」というテーマの先取性を常に誇りに思っている。アジアで初となる国際博覧会であるからこそ、1970 年日本国際博覧会にあっては、科学技術による「進歩」に加えて、東西文明の融合によってもたらされる「調和」という価値の重要性が強調された。その精神は、1990 年に大阪の鶴見緑地で開かれた国際花と緑の博覧会のテーマである「自然と人間との共生」にも、人類文明と自然との調和というかたちで継承されている。

エキスポタワー

さらに「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする 2025 年日本国際博覧会にあっても、SDG’s 達成への貢献をうたい、「共創」をコンセプトとするなど、国際社会における「調和」への配慮をなすべきというメッセージ性を読み解くことができる。

国際博覧会のレガシーは、建物や道路といった物理的なものだけではない。博覧会がもたらした新たな生活様式、さらには人々の心のなかに残るメッセージ性や、博覧会場で経験した新たな価値観も重要な遺産として開催地に継承される。大阪の人々にとって国際博覧会は、文化の多様性を前提に、「進歩」と「調和」の均衡の意義を体感する機会であった。2025 年の大阪・関西万博にあっても、その伝統を理解したうえで、世界の人々とともに持続可能な成長のモデルを創り出すことが求められている。

参考文献

・橋爪紳也監修『EXPO ‘70 パビリオン　大阪万博公式メモリアルガイド』平凡社、2010
・橋爪紳也『大阪万博の戦後史』創元社、2020
・橋爪紳也、西村陽編著『電気と博覧会』電気新聞出版部、2020

大阪府学校医会 70 年の軌跡

年　代	大阪府学校医会会長	大阪府学校医会主要事項	学校保健研修会
昭和 26 年～ （1951 年）	伊賀　政雄	大阪府学校保健会改称発足にあたり大阪府学校医会が　新組織として活動を開始	
昭和 28 年～ （1953 年）	長谷川　等		
昭和 30 年～ （1955 年）	冨永　文治	昭和 30 年　（1955 年） 大阪府立高等学校保健会発足、現大阪府立高校学校医部会が活動開始 昭 31 年（1956 年） 政令指定都市となった大阪市が分離、大阪市学校保健会発足	
昭和 36 年～ （1961 年）	安田　慶二		
昭和 47 年～ （1972 年）	嶋田　豊春	昭和 49 年（1974 年） 大阪府学校医会誌　創刊	
昭和 53 年～ （1978 年）	尾花　　茂	昭和 60 年（1985 年） 当会顧問の役職に大阪府医師会副会長の参加を得る	
昭和 63 年～ （1988 年）	陶山　勝彦		
平成 2 年～ （1990 年）	浅野　宣春		
平成 5 年～ （1993 年）	加納　　薫		
平成 11 年～ （1999 年）	竹中　恒夫		
平成 18 年～ （2006 年）	三田　　稔	平成 26 年（2014 年） 学校保健研修会開始	平成 26 年　9 月 27 日 ①「いじめ対策基本法施行後、いじめはなくなったか？」 長野総合法律事務所　弁護士　　峯本　耕治 ②「軽度発達障害と学校教育」 奈良教育大学　特別支援教育研究センター 教授　岩坂　英巳 ③「色覚異常の生徒に対する学校医の対応」 宮浦眼科　　宮浦　　徹 平成 27 年　2 月 20 日 ①「産業医の職場巡視」 労働安全衛生コンサルタント　　中川　　潔 ②「長時間労働者の面談時のポイント」 産業精神保健学会　理事　　前久保邦昭
平成 27 年～ （2015 年）	松本　泰仁	平成 28 年 大阪府医師会会長茂松茂人、大阪府医師会学校医部会会長　中尾正俊　本会顧問就任	平成 27 年　9 月 26 日 ①「運動器検診の今後」 貴島中央病院　院長　　貴島　浩二 ②「医師の危機管理」 近畿大学医学部血液内科学教室　教授　　辰巳　陽一 平成 28 年　2 月 20 日 シンポジウム　「学校健診のポイント」 パネリスト 内科・小児科　松下こどもクリニック　院長　　松下　　亨 眼科　　大阪府眼科医会　理事　　宮浦　　徹 耳鼻咽喉科　にしむら耳鼻咽喉科　院長　　西村　将人 整形外科　　貴島会中央病院　院長　　貴島　浩二

年　代	大阪府学校医会会長	大阪府学校医会主要事項	学校保健研修会
平成 27 年～ （2015 年）	松本　泰仁		平成 28 年 9 月 24 日 ①「見えそうで見えない性感染症」 プリンセス・クルーズ社　　来住　智美（船医） ②「学校医が知っておくべき小児内分泌疾患；成長曲線から見えること」 大阪市立総合医療センター小児代謝・内分泌内科 部長　　依藤　　享 平成 29 年 2 月 18 日 シンポジウム「学校健診のポイント」 パネリスト 内科　　松下こどもクリニック　院長　　松下　　享 眼科　　大阪府眼科医会　　理事　　宮浦　　徹 耳鼻咽喉科　大阪府耳鼻咽喉科医会　理事　　森脇　計博 整形外科　　貴島会中央病院　院長　　貴島　浩二 平成 29 年 9 月 9 日 ①「小児科から考える性感染症」 近畿大学医学部堺病院小児科　教授　　森口　直彦 ②「学校で取り組む飲酒問題 岡山県精神科医療センター　　角南　隆史 平成 30 年 2 月 17 日 ①「学校心臓検診の現状と今後に向けて」 近畿大学小児科　　篠原　　徹 ②「子どもの心因性視覚障害と自閉スペクトラム」 滋賀県立小児保健医療センター　こころの診療科 華園　　力 ③「ムンプス」　関西医科大学　総合医療センター 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座　　福井　英人 平成 30 年 9 月 8 日 ①「小児のてんかん」 大阪市立総合医療センター　小児神経内科　　川脇　　壽 ②「子供たちの性をいかに守り育てるか ～性暴力救済センター・ＳＡＣＨＩＣＯの活動から見えてきたこと」 阪南中央病院産婦人科 性暴力救済センター・大阪ＳＡＣＨＩＣＯ　　加藤　治子
令和元年～ （2019 年）	森口　久子	令和元年（2019 年） 大阪府医師会学校医部会会長 中尾正俊　本会名誉会長就任 令和 3 年（2021 年） 大阪府学校医会発足 70 周年	平成 31 年 2 月 16 日 ①「ネット・スマホ依存」 大阪市立大学医学研究科神経精神医学　講師　　片上　泰久 ②知っててよかった救急医療の基礎知識 ～学校での応急処置と緊急対応を中心に～」 大阪急性期・総合医療センター 高度救命救急センター主任部長　　藤見　　聡 令和元年　9 月 14 日 ①「子どもと学習　～医療にできることは何だろう～」 藍野大学　医療保健学部看護学科　教授　　若宮　英司 ②「赤目の子供の接し方」 星ヶ丘医療センター　眼科部長　　佐々木　香 令和 2 年 3 月 14 日（コロナウイルスにより中止） 令和 2 年 9 月 19 日 ①「本邦における子宮頸がん対策～ HPV ワクチンの再普及に向けて～」 大阪大学大学院医学系研究科　産科学婦人科学　　上田　　豊 ②　「『児童虐待』の今、現状と対策について ～すべての子どもに明るい未来を～」 京都市児童福祉センター診療所　診療課長　　市川　澄子

（一社）大阪府立高等学校校医会　あゆみ

年度	会長	主要事項	学校医（産業医）講習会
昭和 30 年	長谷川　等	大阪府立高等学校校医会結成	
昭和 32 年	中山　幹	昭和 33 年 学校保健法施行　学校医設置を定める	
昭和 34 年	中井善一郎	昭和 35 年 府立高等学校保健研究発表会　開始	
昭和 36 年	嶋田　豊春	昭和 36 年　学校医講習会　開始 昭和 37 年　若年者心疾患協議会 開始	
昭和 39 年	西　富太郎		
昭和 43 年	石賀　済	昭和 44 年 大阪府立高等学校校医会　会誌　創刊 昭和 47 年 若年者心疾患対策協議会　開始	
昭和 49 年	陶山　勝彦		
昭和 59 年	浅野　宣春	平成 2 年　社団法人化 平成 3 年 社団法人大阪府立高等学校校医会 創立 40 周年記念式典	
平成 6 年	藤本　正三	平成 7 年 社団法人大阪府立高等学校校医会 40 周年記念事業 安全衛生協議会　開始 大阪府立学校職員安全衛生管理規定施工 平成 8 年 社団法人大阪府立高等学校校医会 事務局新設 平成 11 年 「学校長のための危機管理マニュアル」発行 平成 12 年 学校医（産業医）講習会　開始	H12. 2.22 ①　一般健康診断の事後処置について 大阪府医師会産業医部会　常任委員　小出　鈴三 ②　高校生のメンタルヘルス 近畿大学医学部　精神神経科　教授　花田　雅憲 H12.10.28 ①　母性健康管理とセクハラ 雇用均等室長　木村スズ子 ②　結核の現状と集団感染対策 大正区保健センター長　志村　雅彦 H13. 3.10 ①　産業医の職務と関係法令 大阪産業保健推進センター　相談員　佐川　守 ②　職場における禁煙対策 大阪がん予防検診センター調査部　中村　正和 H13. 6.16 ①　最近の労働衛生法の動向 大阪産業保健推進センター　相談員　佐川　守 ②　心電図のよみ方 大阪府成人病センター　第１内科　柴田　宣彦 H13.10.11 外科医から観た心臓疾患の健康診断と事後処置 神戸大学医学部　第２外科　教授　大北　裕

年度	会長	主要事項	学校医（産業医）講習会
	藤本　正三	平成 14 年 健康相談活動体制整備事業開始	H14. 3.16 ①　心肺蘇生術について 高等学校校医会　理事　荘田　静 ②　軽度尿異常例について 高等学校校医会　理事　森　勝敬 H14. 7.27 ①　ＶＤＴ作業による健康障害と予防対策 大阪教育大学　教授　中迫　勝 ②　職域における肝炎対策 大阪府医師会　理事　酒井　英雄 H14.10.26 ①　外因性内分泌撹乱化学物質（環境ホルモン） 兵庫医科大学　衛生学　教授　小泉　直子 ②　エイズの現状と対策 大阪産業保健推進センター　橋本　博
		平成 15 年 府立養護学校における医療的ケアに関する運営協議会立ち上げ	H15. 6.14 ①　産業保健の過去・現在・未来 大阪市立大学医学部　名誉教授　堀口　俊一 ②　予防接種と感染症（海外派遣労働の注意点） 兵庫医科大学　消化器内科　助教授　谷田　憲俊 H15.10.11 ①　過重労働による健康障害について 大阪府医師会産業医部会常任委員会　顧問　桝屋　義雄 ②　生活習慣病と腰痛 兵庫医科大学　整形外科　教授　圓尾　宗司 H16. 2.14 ①　働く人の為の生活習慣病の予防と健康管理 大阪産業保健推進センター　阿部源三郎 ②　最近職場でよく見られる高脂血症の合併症としての胆石症の治療 枚方市民病院　副院長　森田　眞照 H16. 6.19 ①　産業保健の倫理 大阪医科大学大学院医学研究科 産業医学分野　圓藤　吟史 ②　教職員のためのメンタルヘルス 大阪府医師会　前久保邦昭 H17. 2.19 ①　スポーツと心臓 ―スポーツ参加適否の評価手段として― 大阪市立大学　名誉教授　前田　如矢 ②　これからの化学物質との付き合い方 関西医科大学　名誉教授　原　一郎 H17.10.22 ①　労働安全衛生法の解説 大阪産業保健推進センター　副所長　利光　博洋 ②　職場に於ける労働災害の事例 関西電力病院　形成外科　部長　高見　昌司

年度	会長	主要事項	学校医（産業医）講習会
	藤本　正三	平成 18 年 社団法人大阪府立高等学校校医会 創立 50 周年記念式典	H18. 9.30 ①　安全衛生法の改正について 大阪産業保健推進センター　副所長　本田　耕造 ②　産業医のための平衡障害と気道炎症について 関西医科大学　耳鼻咽喉科　助教授　久保　伸夫 H19. 2.24 ①　過労死・過労自殺予防のために 勤労予防医療センター　相談指導部門 部長　久保田正嗣 ②　学校医の産業医のためのＡＥＤ 兵庫医科大学（ＩＣＵ）　久保山一敏
		平成 20 年 「熱中症予防のための運動指針」策定	H20. 3.22 ①　過重労働と健康障害について 産業保健推進センター　副所長　本田　耕造 ②　有機溶剤中毒について 大阪医科大学公衆衛生学教室　教授　河野　公一 H21. 1.17 ①　産業医に求められる眼科の知識 大阪府眼科医会　理事　宮浦　徹 ②　産業医が職場で生かす感染症の知識 大阪府医師会学校保健会　理事　中谷　正晴 H21.12.12 ①　熱傷及び特殊熱傷について 神戸大学　皮膚科　准教授　池田　哲哉 ②　職場に於ける消化器病健診について 神戸大学　消化器内科　特命准教授　吉田　優
平成 22 年	荘田　静		H22.12.18 ①　教職員の健康管理について 労働衛生コンサルタント　中嶋　千晶 ②　化学熱傷について 大阪医科大学公衆衛生学教室　教授　河野　公一 H23. 8.20 ①　職員の過重労働における虚血性心疾患の発生予防 大阪警察病院　循環器科　副医長　根本　貴祥 ②　職場における薬物乱用の実態 大阪市立大学医学部　神経精神科 講師　片上　素久 H24. 3.24 ①　現代の教職員のうつ病 日本産業保健学会 理事　前久保邦明 ②　職場における慢性腎疾患の発見と診断 大阪府急性期・総合医療センター 腎臓・高血圧内科　主任部長　椿原　美治
		平成 25 年度　一般社団法人化	H25. 8.24 ①　労働衛生関係法規と関係通達の改正 産業保健推進センター　副所長　広安　由子 ②　産業医のための糖尿病入門（診断から管理まで） 大阪警察病院　内科統括部長　小杉　圭右 H26. 3.29 ①　産業医として知っておくべき結核の知識 大阪府呼吸器・アレルギー医療センター 小児科主任部長　土居　悟 ②　産業医が知っておくべきアルコール依存症の実態 日本産業保健学会　理事　前久保邦昭

年度	会長	主要事項	学校医（産業医）講習会
	荘田　静	平成 28 年 健康診断に運動器検診追加 学校産業医ストレスチェック制度　開始	H26. 8.23 ①　心疾患患者に対する運動療法の勧め 大阪済生会千里病院　循環器内科　副部長　岡田研一郎 ②　腰痛、その多様な病状と対策 大阪鉄道病院　整形外科　部長　小西　定彦 H27. 3.28 ①　職場巡視 労働安全衛生コンサルタント　中川　潔 ②　長時間労働者の面談時のポイント 産業精神保健学会　前久保邦明 H27. 8.22 産業医のための循環器検診の事後措置 ～心電図判定の考え方と運動指導の注意点～ 大阪赤十字病院　心臓血液センター 不整脈内科部長　牧田　敏則 H28. 3.26 歯科医から見た労働者のための健康管理 城徳歯科医院　院長　城徳　昭宏 H28. 8.27 麻酔医から見た最近の手術について 産業医及び学校医としての活動へのアプローチを考える 阪神労働衛生コンサルタント（麻酔医）　松本　宏 H29. 3.25 教育現場並びに事業所などで問題となる 感染症の予防と発生時の対処について 関西医科大学公衆講座　教授　西山　利正
平成 29 年	松本　泰仁	平成 30 年 大阪市立支援学校が大阪府に移管	H29. 8.26 最近の労務問題に関して労働者と産業医への法的課題 東豊社労士事務所　代表　特定社会保険労務士 林　利恵 H30. 3.24 ①　労働者の対応に必要なアンガーマネジメント 医療法人上島医院　院長　渥美　正彦 ②　最近の労働安全衛生法を中心とした改正項目と 学校医に求められる視点 大阪大学安全衛生管理部　部長　山本　仁 H30. 8.25 健康増進事業の立場からみた産業医への健診機関選びのポイントと、事業所及び学校内での生活療法指導等を行う上での利用法と実践 公益財団法人　兵庫県予防医学協会 常務理事／健康保険センター長　安田　敏成 H31. 3.23 ①　産業保健で役立つ歯科の基礎知識 はしもと歯科医院・労働衛生コンサルタント 橋本由加里 ②　学校医・産業医の知っておくべき症例と対応 萩原労働衛生コンサルタント事務所 代表　萩原　聡 R 1. 8.31 ①　東日本大震災から学ぶ産業医と学校医のために求められる知識 福島県立医科大学　医学部疫学講座 主任教授　大平　哲也 ②　業医が知っておくべき社会人のひきこもりへの対応 日本医師会認定産業医 前久保クリニック　院長　前久保邦昭

年度	会長	主要事項	学校医（産業医）講習会
	松本　泰仁	令和 2 年 令和 4 年大阪市立高等学校の大阪府への移管に伴う「要望書」を大阪教育庁に提出 令和 3 年　学校産業医 「健康診断結果による緊急連絡対応について」緊急連絡基準値の統一	R 2. 3.28（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止） R 2. 8.29（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止） R 3. 3. ①産業医の職務について 大阪市立大学大学院医学研究科産業医学 大阪府医師会産業医部会　林　朝茂 ②産業医のための海外健康管理状況―フランスを中心に― 愛港園診療所　院長　木戸　友幸 R 3. 8.14（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

府学校保健会各部会歴代役員

学校医部会

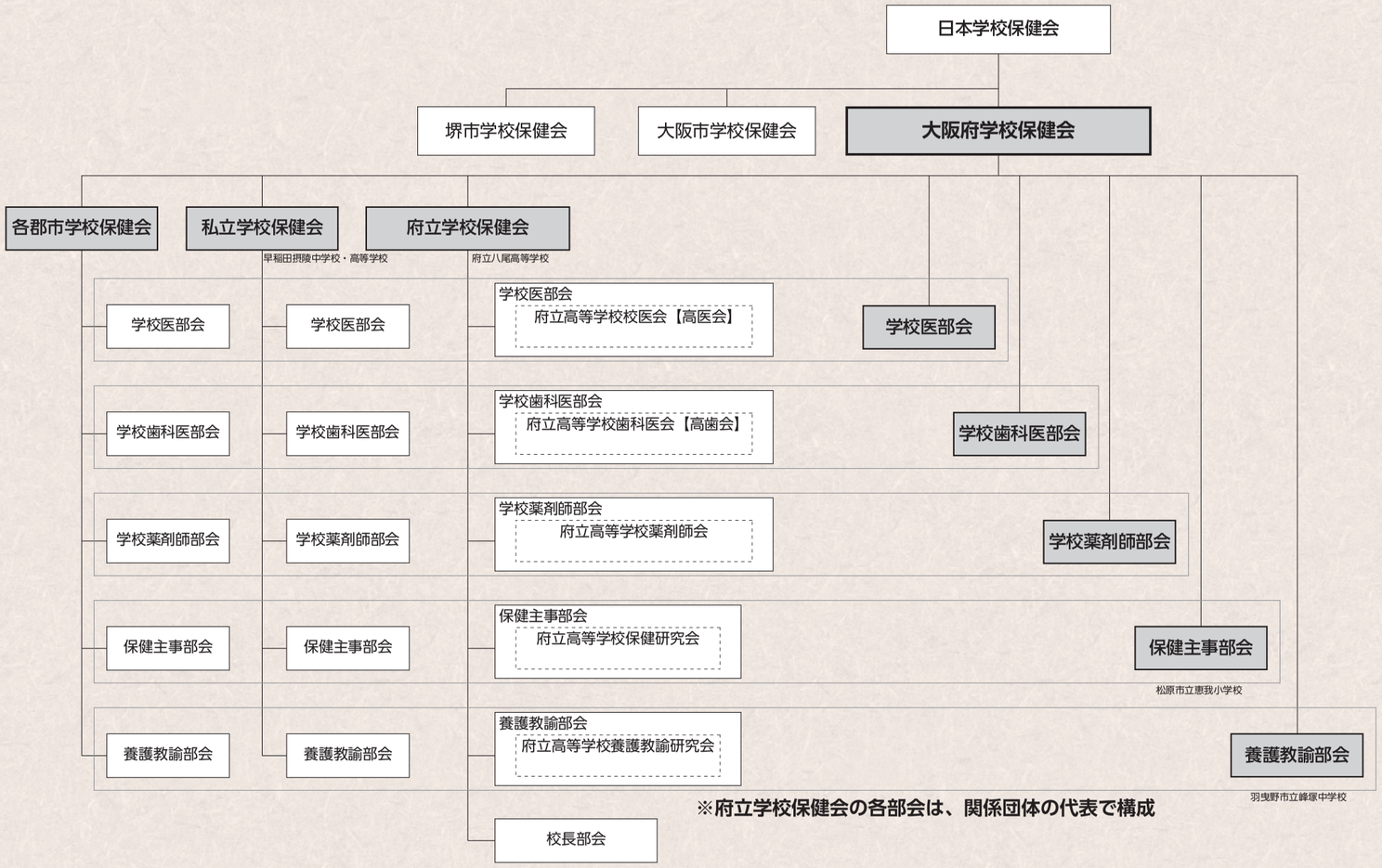
年度	会長	副会長			
昭和 26	伊賀　政雄				
27		大阪府学校保健会の母胎時代			
28 ～ 29	長谷川　等				
30 ～ 35	富永　文次	学校医会正式発足。副会長制なし			
36 ～ 46	安田　慶二	弓場　靖	湯浅　高義	嶋田　豊春	尾花　茂
47	嶋田　豊春			森山　貞信	
48					
49 ～ 52				陶山　勝彦	
53	尾花　茂（代行）				（尾花　茂）
54 ～ 61	尾花　茂				川合日出雄
62	陶山　勝彦			浅野　宣春	
63					
平成 1	浅野　宣春	小泉　星一	武市　直門	別府　審一	
2				巽　庄司	
3			加納　薫	津留　俊宏	
4					
5	加納　薫	浅野　宣春	湯浅　実	竹中　恒夫	井出　幸彦
6 ～ 10		肥塚　正宏 9. 1 ～			
11 ～ 15	竹中　恒夫				
16		三田　稔			
17					
18	三田　稔（代行）	小川　實	森口　久子		
19 ～ 25	三田　稔				
26				松本　泰仁	
27 ～ 29	松本　泰仁	伊賀　千洋			
30	森口　久子	熨斗　有	松木　智子		
令和 1					
2					
3		田邊　稔邦			

歴代表彰者

年度	生存者叙勲	文部科学大臣賞		大阪府知事			大阪府教育委員会		
昭和 26							藤沢　志朗		
昭和 27							樋上　信夫		
昭和 28		安田　慶二							
昭和 29				伊庭　泰	弓場　靖		谷川　義雄		
昭和 30		谷川　義雄							
昭和 31		長谷川　等					伊賀　政雄	西　起三郎	
昭和 32							長谷川　等		
昭和 33		中山　幹					中山　幹		
昭和 34				油谷安次郎			今西富太郎	富永　文治	
昭和 35				紺谷　茂	木庭　永助			沢田　利	
昭和 36				中井善一郎					
昭和 37				勝　正雄	松本　弥三	山口　七郎		石賀　済	古林　兆一
昭和 38				藤沢　志朗	中井　義重	武井　武夫	大槻　重徳	嶋田　豊春	藤田　元洋
昭和 39		紺谷　茂							
昭和 40									
昭和 41				丸岡荒太郎	加藤　秀夫			大坂　利	
昭和 42		中井善一郎		石賀　済	安田　慶二				
昭和 43		今西富太郎		今西富太郎					原田　龍夫
昭和 45				古林　兆一	嶋田　豊春	大坂　利	東　久太郎		
昭和 46		石賀　済		小林　弥毅					
昭和 47				原田　龍夫		湯浅　高義		大西　照市	
昭和 48							弓場　靖		
昭和 49		原田　龍夫			湯浅　高義			磯部　豊一	
昭和 50		嶋田　豊春		中島　慶彦				池田　勇	
昭和 51	中井　義重			山口　龍之				宮代英次郎	
昭和 52		弓場　靖		尾花　茂			陶山　勝彦	清水　茂夫	
昭和 53				湯浅　高義				野々上泰信	
昭和 54					長谷川隆元			安積　和夫	
昭和 55		尾花　茂			武市　直門		谷内　岩男	油田　正経	
昭和 56					大西　照市		梶野　義一	村田　昌稔	
昭和 57	石賀　済				陶山　勝彦		古賀　薫	今井　将	
昭和 57	磯部　豊一								
昭和 58					川合日出雄		浅野　宣春	石川　宏	
昭和 59	別府　審一	北田　康一			木下　秋水		浅井　茂三	河野　康通	
昭和 60	湯浅　高義	池田　勇			野々上泰信		竹村　芳美	小林　星一	
昭和 61	緒方　孝彦	武市　直門			梶野　義一		楠　研二	谷口　武彦	
昭和 62		川合日出雄		加納　薫			高階　義登	藤本　正三	
昭和 63		大西　照市	野々上泰信		小泉　星一		竹中　恒夫		
平成元年		浅野　宣春		浅野　宣春	竹中　恒夫		三木　謙	掃部　弘	
平成 2 年		谷内　岩男	安積　和夫				川人　潤	田中　開	
平成 3	辰巳　武吉	小泉　星一		村田　昌稔			肥塚　正宏		
平成 4		木下　秋水		石川　宏	高階　義登		窪田　博之	大野　正	

年度	生存者叙勲	文部科学大臣賞		大阪府知事		大阪府教育委員会		
平成 5		加藤　薫		藤本　正三		内田　俊策	湯浅　實	
平成 6		竹中　恒夫		肥塚　正宏		長尾　儀廣	高須　高	
平成 7	伊藤　博仁	藤本　正三		三木　謙	大野　正	安藤　純	松山　文夫	
平成 8	森井　一	梶野　義一		内野　俊策		山尾　忠輝	三田　稔	
平成 9		高階　義登		肥塚　正宏	窪田　博之	井上　廣志	井出　幸彦	
平成 10	小嶋　一旺	田中　信人		湯浅　実	長尾　儀広	前田　勉	池添　逸夫	高木　秀夫
平成 10	佐々木達男							
平成 11	横野幾之介	内田　俊策		松山　文夫		朝隈啓一郎	日下　高志	臼井　弘行
平成 12		三田　稔		三田　稔		森　勝敬	根川　泰夫	杉田　辰久
平成 13	弘中　義夫	大野　正		井上　廣志	日下　高志	岡原　猛	中尾　純一	荘田　静
平成 14	眞島　榮一	松山　文夫	井上　廣志	朝隈啓一郎		藤井　正道		
平成 15	大杉　順子	日下　高志	福田　茂樹	岡原　猛		上仁　義一	秋山　憲敬	
平成 16	井出　俊一	前田　勉		前田　勉				
平成 17				池添　逸夫				
平成 18		臼井　弘行		臼井　弘行		森口　久子		
平成 19		湯浅　實		森　勝敬		伊賀　千洋	松本　泰仁	
平成 20		朝隈啓一郎		荘田　静		小川　實	龍神　良忠	
平成 21		荘田　静		松本　泰仁		小川　啓子	木村　三郎	
平成 22		勝井　正道		森口　久子		高折　忠太	中川　兵介	
平成 23		森口　久子		小川　實	小川　啓子	大谷　卓司		
平成 24		小川　實	樋上　忍			松本　圭		
平成 25		松本　泰仁				熨斗　有	平林　洋一	
平成 26	三田　稔	池添　逸夫		熨斗　有	平林　洋一	大平　眞司	田邊　稔邦	
平成 27		平林　洋一	小川　啓子	中川　兵助		寺嶋　秀幸	磯和　剛平	百済　尊彦
平成 28		熨斗　有		寺嶋　秀幸		吉田　毅	福本　敬子	
平成 29	藤本　正三	寺嶋　秀幸		田辺　稔邦	大平　眞司	仁科　昌久	松下　享	
平成 30	荘田　静	田辺　稔邦	大平　眞司	磯和　剛平		秋山　晴近	山田　晃久	市川　正裕
令和元		磯和　剛平		松本　圭		松本　智子	山本　隆	
令和 2		秋山　晴近		秋山　晴近	仁科　昌久	杉本　睦子	高丘　将	宮浦　徹

組織図



総会写真集

編集後記

令和の時も３年が過ぎ、今日、大阪府学校医会 70 周年、大阪府府立高等学校校医会 65 周年を迎えることとなりました。

記念誌発行にあたりましては、各方面のご協力と、ご寄稿頂きました関係諸氏のお力により、当会の歴史と活動を理解して頂けるものに仕上がったと自負しております。

今後も一同、医師として学校関係者として、双方の視点を持てる立場に感謝と責任を感じつつ、精一杯活動していく所存でございます。

当会への皆様の旧に倍してのご指導をお願いし、編集後期に代えさせて頂きます。

松木　智子

大阪府学校医会 70 周年
（一社）大阪府立高等学校校医会 65 周年
記 念 誌

発　行　日

発　行　者　　松本　泰仁
　　森口　久子